

成人向け書籍

YCLONE

スタータック・イドー

# STAR TAC ■ IDO

～ようこそ破邪の洞窟へ（前編）～



序章  
「レオナ回想」

はあ……

はあ……

はあ

はあ……

だッ……

大丈夫か？  
……レオナッ

平気よ……  
何とか

ミナカトールを  
会得した後……

……ああ

とにかく  
……急ごう  
ダイ君……

何か他に  
役立ちそうな力を  
得る事ができればと  
思った私は

ハァ  
ハァ

ダイ君に付き添いを  
お願いしてもう一度  
破邪の洞窟へ  
やって来たのだけど……

今は……

……その自分勝手な  
行動をとても  
後悔している



高橋……  
呪われたハイナムは  
この部屋をへた外へ……  
たどり着けたら……

僕たちは……  
地上へ引き返す……  
したのだけれど……

器具はほんの少し  
身体を動かすだけで  
敏感な部分に当たってしま  
う……  
必要な……  
身体に快感が……



指輪は呪いのアイテムで  
突然強い力が私たちの  
周りを回った……  
思った次の瞬間に  
それは身体のある部分に  
響き……

おそらく……  
ヒュンケルも  
似たような性質  
なのだろう

!!?  
それは次第に  
形をとどめて  
いつて……

私たちはなす術もなく  
数割に無理やり  
卑屈な器具を装着されて  
しまったのだ……

ガチャーン



……

この前来た時には  
そのままやり過  
した宝珠の……  
開けた……  
その中には  
2つの指輪が……  
入っていた……

……  
私は何らかの  
被害の効力を回避して  
ダイ君と自分の指に  
それをはめてしまった

……  
それが思わぬ  
事態を引き起こ  
してしまったのだ

しかも……



これには更に  
厄介な作用が  
あって……



ヒヤタルコツ

竜闘気ツ!



魔法力や闘気を  
使おうとすると

その力を  
吸収し……



ひあッ!!!

器具が……

猛烈な勢いで  
動き出すのだ

は……  
は……  
あ……

ただでさえ身体が  
火照ってしまっ  
ているというのに……  
…こんな凄い刺激

ズイン

あッ……

あッ……

あッ……！  
イ……くッ

あッ……

イクッ！  
イ……くッ

アソコの敏感な突起に  
押し当てられる振動と  
お尻の穴の中を暴れる  
ようにかきまわしてくる  
器具の動きによって  
私はその場で何度も  
イカされてしまい……

精液を無理やり  
搾り出さ  
れていた

うああッ！

ダイ君にいたっては  
皮肉なことに  
紋章の力が  
強大すぎるせいで  
私以上の振動を性器に  
直接あてられ続け

うあああ  
ああ——ッ！



結局その後！  
私たちは魔法や魔法に頼らない方法で戦ったことしかのだけれど……



こんな有り様ではもう……私たちに残された手段といふは、ただひたすら怪物から逃げるしかない



……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



ああ……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

振動こそ収まっているものの、相変わらずこの身置な器具は機能不全分に陥れてくため、第一歩

！何より呪文が使えるという状況ではないはあまりに無力で、閉じてくる怪物たちに手も足も……

これまでに敵軍の力に頼りきってばかりいたために、その影響は大きく……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



……

……

……

……

……

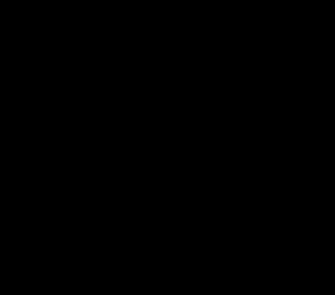
……

……

……

……

……



……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

ようこそ  
破邪の  
洞窟へ

第1章 「敗北、陵辱、惨憺たる…」

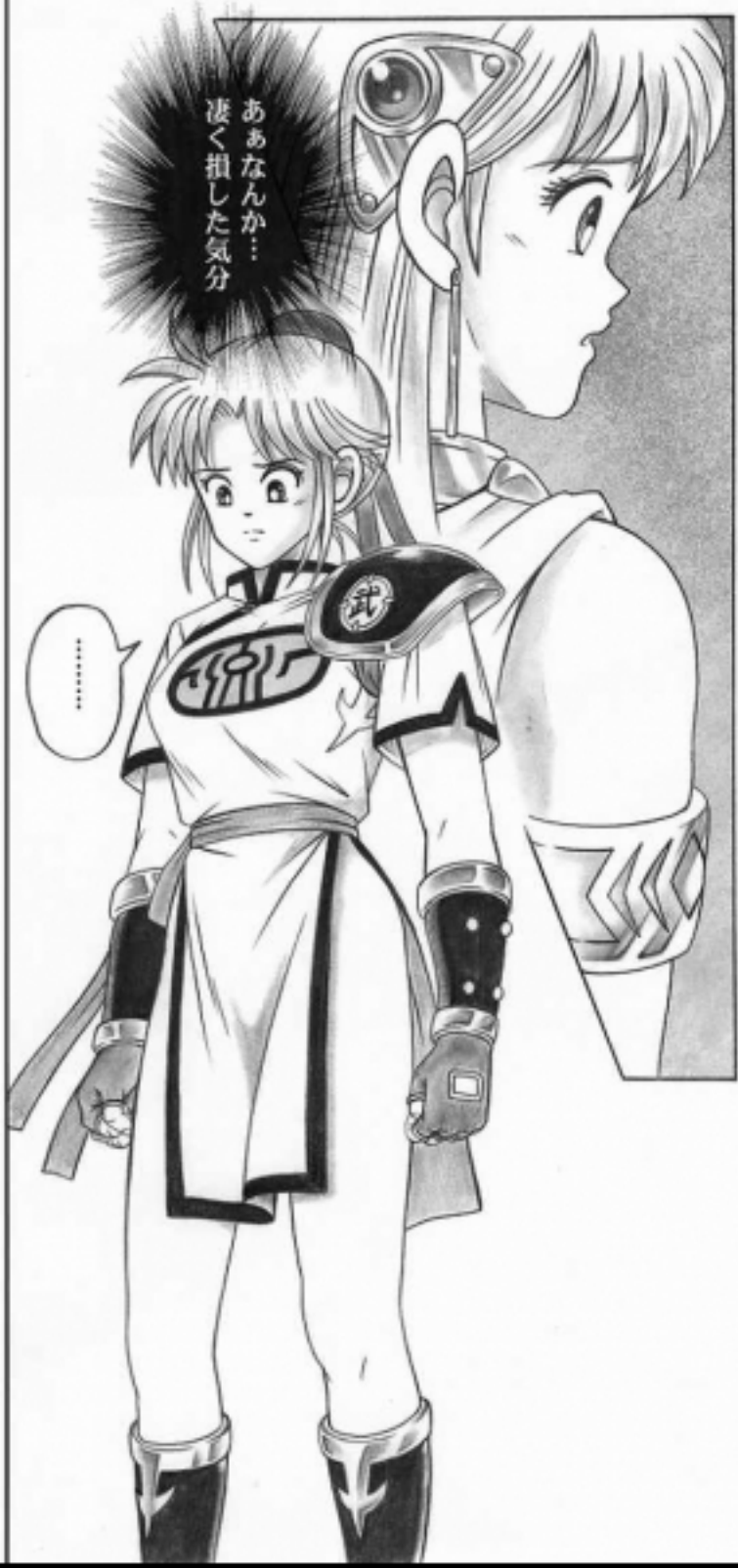






あ……まさか  
あの2人……

ねえ……  
宝箱……  
開けていいか  
ないの？



ああなんか……  
凄く損した気分

……



ダメよレオナ  
時間が  
無いんだから

今はとにかく  
ミナカトールの事  
だけを考えましょ



でも……破邪の洞窟の  
性質からいって  
地下深い層の宝箱には  
きつと凄いアイテムが  
入ってると思うんだ  
けどなあ……



はッ…あああ  
ああ

ッ  
!!!!

ピギョウ

ピギョウ

ギョウ  
ウウウ

ピチ

ピチッ

ああッ

いやッ!

レオナッ!







ダイ君ッ!

うっく!

ウッッ



カッ

ダイ...君ッ

私の事は  
いいからッ

せめてッ...  
きみだけでも  
逃げ

クエホッ

はあああッ  
ツ!!!!

















レオ……ナ？

ちら

いま……  
人の声が聞こ  
えたような……



ハッ



2人とも……



なに……とも  
無ければ  
いいんだけど……



………気の  
せいかな



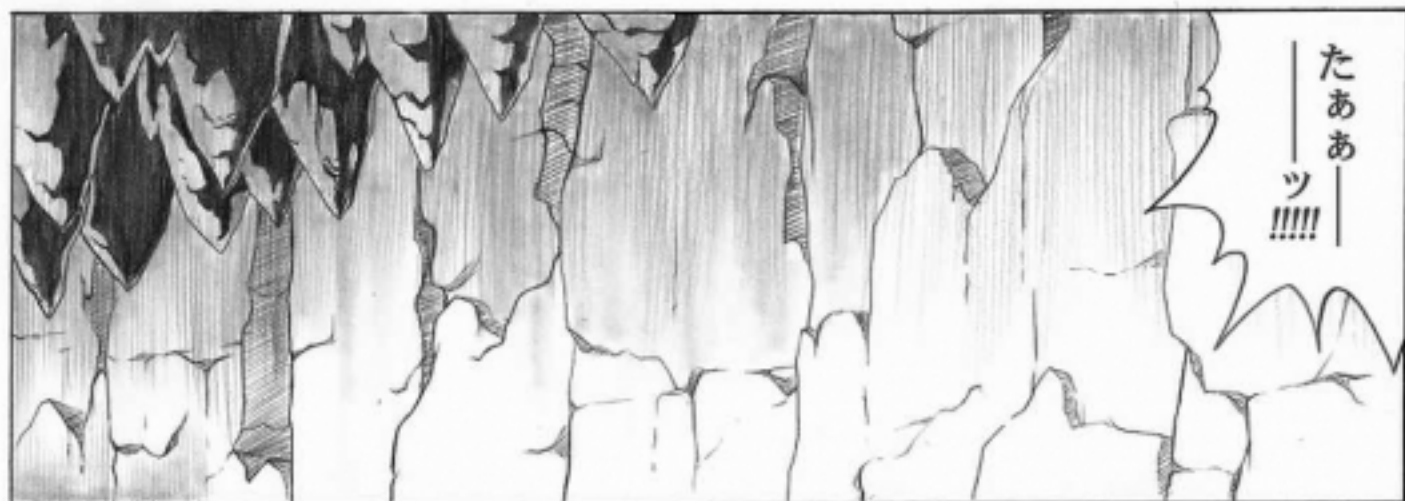
ダイ君を……

助けて……ッ

第1章 END



第2章 「マアムとマアム」







相変わらず  
ものすごい数の  
怪物……  
まあダイが  
護衛役なら  
レオナに身の危険は  
ないだろうけど

……ふっ



今までは  
身体の事を  
考えてセーブ  
していた力も

これさえ  
着けていれば  
限界近くまで  
引き上げる事が  
できる



……それに  
しても

ヤッ

驚いたわ  
……

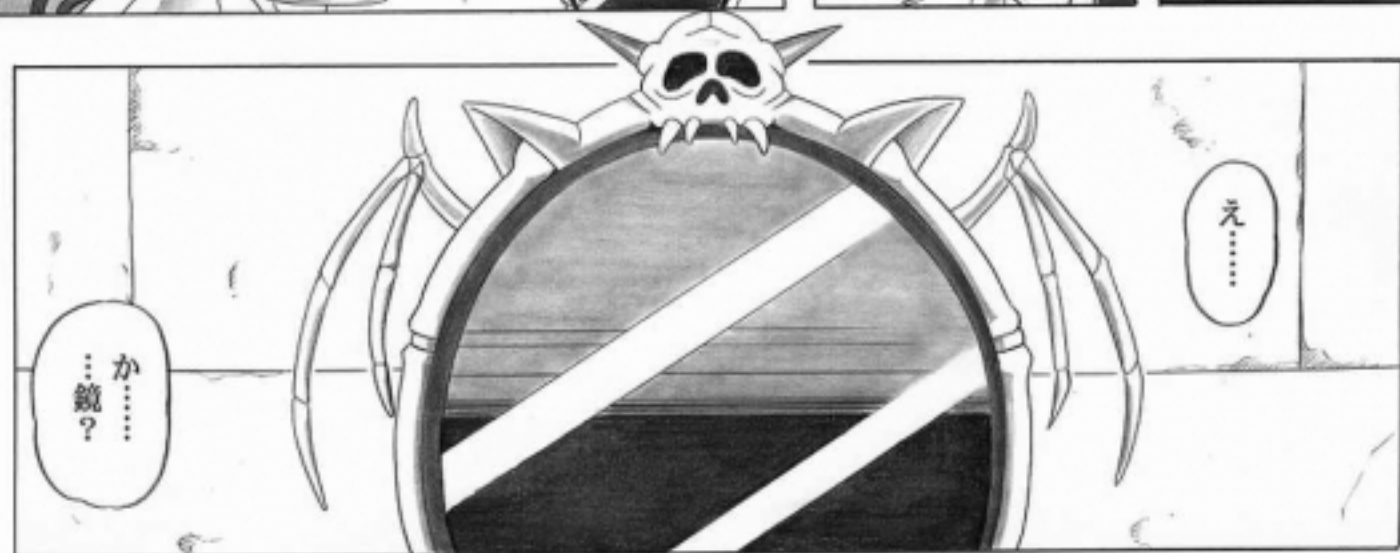


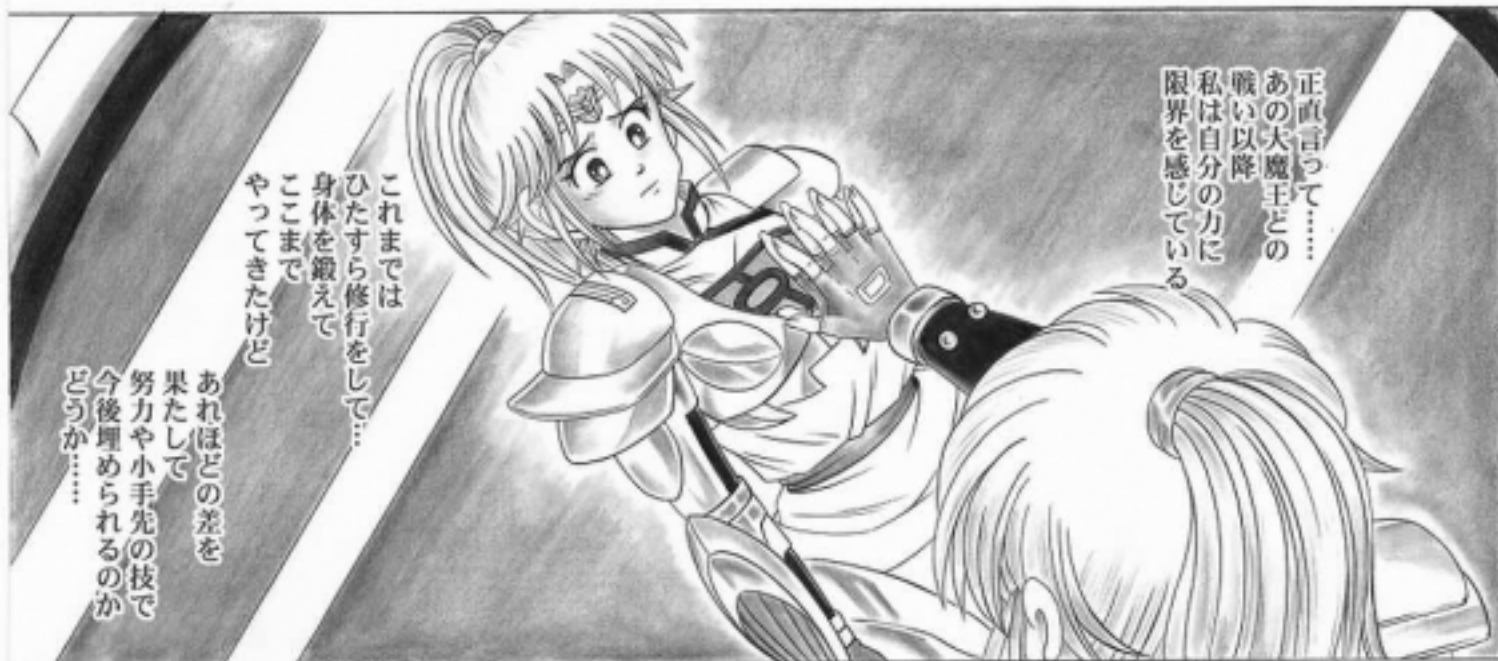
この……  
ロンベルクさんの  
魔甲拳

使える……

フッ

これは  
使えるわ！



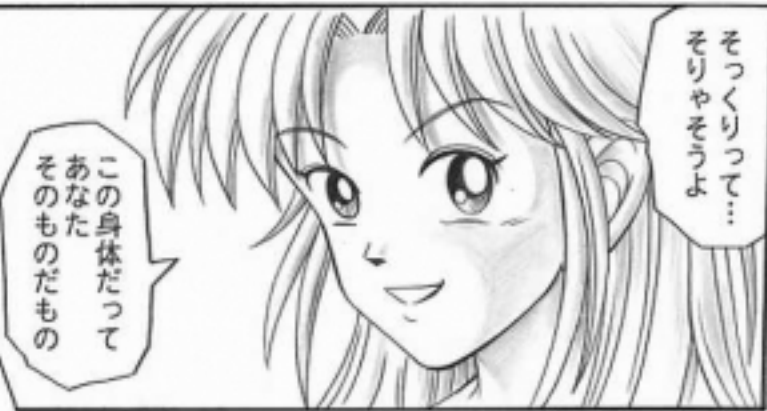








え……？



そっくりって……  
そりゃそうよ

この身体だって  
あなた  
そのものだもの



あの瞬間……  
震の発動条件を満たした  
あなたには  
呪法がかけられてね

その結果  
あなたの肉体は  
無理やりとつに  
分離させられたのよ



ただ私の場合……  
分かれた片方の肉体に  
魂を乗り移らせて  
自分のモノに  
できちゃうから

震としては  
かなり性質が悪い

ぶっちゃけこんなの  
泥棒だからね  
……肉体を盗む泥棒



まっ……魔界じゃ  
この手の呪法は  
そう珍しくもなく

強大すぎる力を  
持った権力者なんか  
切り札隠しのために  
自分の身体をわざと  
分離したりって……  
まあよくある  
話なんだけど



ベースとなる  
本体と

鏡に映った  
分離体とに

フッ……





ああなるほど……  
つまり武装したお前は  
丸腰の私より強いと

ハッ



私には……  
この魔甲拳が  
あるッ

ギョ……

だけど……



は……  
速いッ!



それじゃあ  
早速

ザッ

そこんとこ  
試して  
みましようかアツ





あがあつ...

お前は分離の呪法を「きれいに半分する行為」と思ってるようだけどそれは勝手な思い込み



一つ...お前の勘違いを指摘しようかしら



実際には...  
2体それぞれに身体的特徴をふり分ける形で肉体の分離が行われるの

たとえば  
叡智と魔力を本体に...  
若さと力を分離体にと  
いった具合にね



ちなみにじゃあ今回の場合はどうしたかっていうと...  
どうやらお前は以前に「転職」をした事があるようだったからね



それじゃああなたは...

これを利用して  
転職前の力のみを  
本物に残し  
転職した後の力を  
ニセ者である  
私に授ける形で  
肉体を分離  
させてもらったわ



そう……  
つまり

武闘家としての  
才覚は私が持ち



お前には  
僧侶としての力のみが  
残されたってわけよ



……まあ別に  
それが無くても

私はこの  
数々の指輪で  
能力を高めて  
いるから



僕にはまったバカを  
いつでも返り討ちに  
できるわけだけど

そん……なッ……

本物より……  
偽者の方が  
強いなんて……

わっ……

ゲイッ

う……  
うそよッ……  
そんなことッ



信じられる  
もんですかッ

おじや……



……なら

ゲイッ

ゲイッ





第3章 「もう戻れない身体」





私はねえ…  
震にはまったヤツが  
必死に自分の身体を  
取り戻そうと  
もがく無様な姿が  
大好きなんだけど…



あなたの場合は  
力の差がつきすぎて  
その辺りなにか  
物足りなかったの

ただし……  
今まで震に  
かかったヤツと  
違って  
良いことも一つ  
あるわ

にっ

ぐそ..

ぐそ..

それは  
あなたが

女の子だって  
とこ

トクッ

だって惨めな姿を  
拜むのなら  
もっと良い方法が  
あるからね

なっ……  
なにをッ!









はうッ

ビクッ

フッ...

ふん...  
どれどれ

フッ...



あッ...

フッ  
フッ

フッ

フッ

フッ

フッ...  
フッ

フッ

あッ...

へっ...  
へっ...  
へっ...

ひああ  
ッ!!



とろ〜ん

はッ...

はッ...  
あッ...  
♡

あらあら...  
癒えた力オ  
しちやって...  
もう火照りの  
スイッチが  
入っちゃったの  
かなあ?





それだけはッ…  
…それだけは  
許し……

おっ…  
おねがい

ダラメツ

ビッ



安心し  
なさい……  
これだけ  
濡れてたら

グイッ

グイッ



痛みなんて  
ないでしょ

くわっ

はあああー

あ…はあ  
あ…はあ  
あ…はあ

いやあッあ  
ああーッ

ブキ

ズッ

ズッ

ズッ

あああッ  
……あ……



はあ…

はあ…

フフ……  
どうだった?  
膜を貫通  
されちゃった  
気分は

大切な処女を  
こんな道具なんか  
挿げちゃって  
やっばり  
シヨック?

はあ…

はあ…

ぎゅっ  
……う……



傷モノは  
派手に楽し  
もうじゃない

ふふ  
あなたのために  
もくつと良いもの  
用意してあげて  
るんだからね



ハア  
ハア  
ハア  
ただこれ  
あなたも大人の  
女の仲間入り  
これまでの  
生ぬるい快楽から  
一歩抜け出し……



もう出てきて  
くれていいわよーッ

はーい  
そういうわけで  
みんなあー



ほんとに……  
あと少しで  
一人で又いちまう  
ところだった

あんなの  
見せつけられて  
控えてるの  
辛かったぜ

ゴト  
ゴト  
ヒク…  
ヒク…  
へへ…  
ようやくか













男たちは  
次々と…

ほッ…

ほッ…

私の身体に  
性器を挿し込み

ブルブル

ブルブル

ふいふい

容赦なく  
精液を  
流し込んでいく

ドッ

ドッ

ドッ

いやああッ  
抜いてえ

私は……

徹底的に  
汚されて  
しまった

んっ

っ

ドッ

ブルブル

ブルブル

もっとも……

心の重苦しさを  
よそに私は

おーおー……  
見てみろよ  
コイツ

へへっ……  
乳首……  
勃ちまくりだ

情けないことに  
女としての反応を  
隠せずについて……

まったく……  
犯されてんのに  
こんな興奮  
しやがって

服の上からでも  
ピンツピンなの  
まるわかりなんだぜ

キエウウウウウ

そーら

おう

おい……  
せっかくだから  
乳首の先  
思いつきり  
引っ張ってやれよ

ひゃ……っ



どうにでもなれ  
という投げやりな  
気持ちで  
半ば放心したまま  
ただ時間が過ぎるのを  
待ち続け……

それから  
先はもう……

あッ

あッ……

パチッ

パチッ



だけどそれが  
功を奏したのか……

うんあ……

フズッ

フズッ

フズッ

フズッ

フズッ

とろ……



しばらくの後

はあ

はあ……

実は静かに  
幕を下ろした

気がつけば  
男たちは一通りの  
欲望を満足させた  
らしく

—かのように  
思われたのだけど

さてって  
それじゃあ十分  
楽しんだ事だし  
私もそろそろ  
ココを離れると  
しようかな

つとお…  
その前に

コトッ

悪いけどこの  
魔甲拳って武器

…コレもらってくわね

どうせ僧侶に戻った  
今のアンタじゃ  
これを使いこなせ  
ないだろうし

…文句は  
ないでしょ？

アムケ  
鎧化

カチャ〜

はあ…

フン…  
どお？  
…似合っ？

はあ…

今日から私が  
本物のマームで  
あなたは  
表舞台から  
消えるのよ



………  
おびおび

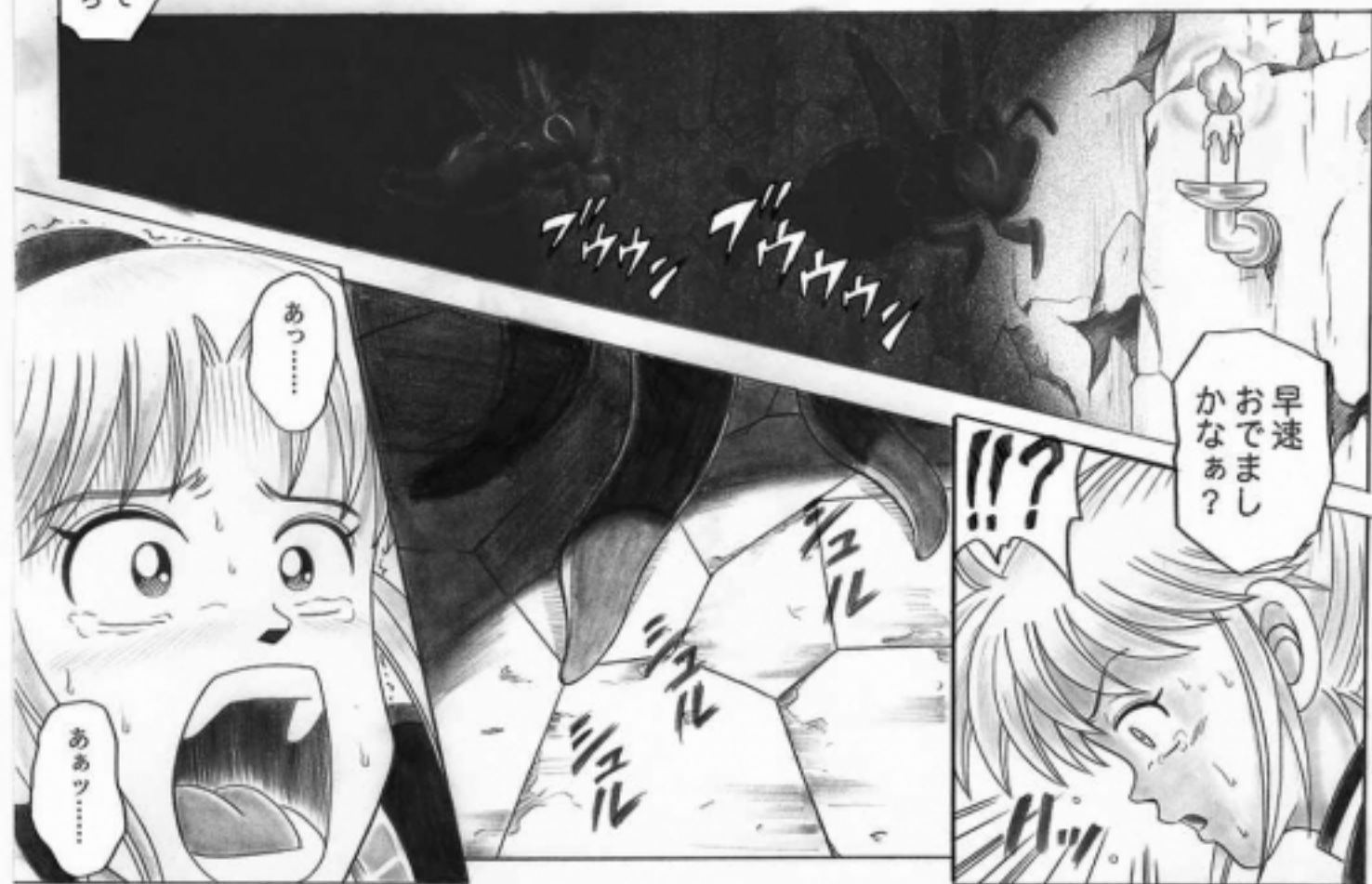


フフ…  
すぐに分かるわ



残りの人生  
退屈しないと  
思うわよ

……これ以上  
なにを……



グハッ! グハッ! グハッ!

あッ……

あッ……

早速  
おでまし  
かなあ?

!!?

ハッ!



いやあああ——  
ッ

ん……ヤッ





声……

いま人の声が  
したような……



た…助かる  
チャンスかも  
しれないッ

なにか…  
なにか行動を  
起こさないと  
……ッ



まさかしばらく  
気を失ってる間に…  
こんな事になってる  
なんて……

だけど  
どうする



ぐに  
ぐに

ぐに

この触手に  
イカされるたびに…

どんどんおれの  
闘気が弱くなつて  
いくのが分かる



くッ…



くはッ!

あッ…

うああ  
…ああッ



多分こうやって  
おれの力を  
吸いとれるだけ  
吸い取つて……

力尽きた後に  
消化しようと  
してるんだッ



フィルッ  
フィルッ

かといつて……  
もうおれの身体には  
竜鬚気どころか  
普通の鬚気すら  
ほとんど残っていない

はあ……

はあ……

こんな状態じゃ  
とてもじゃないけど  
ここから抜け出す  
のは無理だ……



誰か……

誰かそばに  
いるんなら  
気づいてくれッ！

いっ……  
やあ……

いやあッ

ズキッ  
ズキッ

ゴク……  
ゴク……

ああ  
ッ！



あっ

あああッ！

ズキッ

ズキッ

ズキッ

ははッ……  
良いザマねえ



怪物のほうも  
喜んでるわあ

さっきはよくも  
仲間をいたぶって  
くれたなって



……

ほんの少し前まで  
楽に倒していた  
怪物に  
犯されるのって……  
またさっきとは  
別の屈辱感が  
あるでしょう？

あ……  
あ……



ちなみにそいつは  
アンタをただ  
犯すだけじゃなく

お返しに  
数百個もの卵を  
植えてやるって  
意気込んでる  
みたいよ

そッ……

そん……なッ

じゃあ…さつき…ツ  
から感じて…る…  
この…異物感…はツ…

ええ…そうよ  
今この瞬間にも  
押し込まれた管から  
着々と卵が産み落と  
されているの

今ごろ  
アンタの  
穴の中…

卵がびっしり  
敷き詰められて  
凄いことに  
なってる  
でしょうねえ

いやああー  
ツ

お願いツ

卵なんて…  
許してええー

あツ！  
…いあツ

あツ！

くああツ

フフ…



ほんとう……  
今回はいい獲物に  
ありつけて  
ラッキーだったわ



すべて  
私のもの

鍛え抜かれた  
身体と  
類いまれな  
戦力は



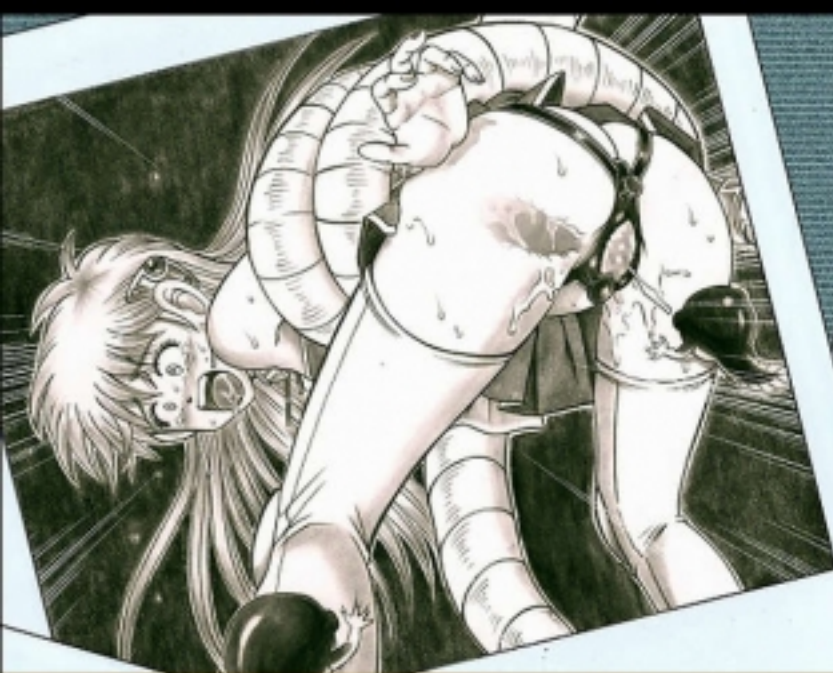
ありがたく  
頂いていくわね

アンタの持ってた  
武闘家の能力

第3章 END

----- 第4章へ続く



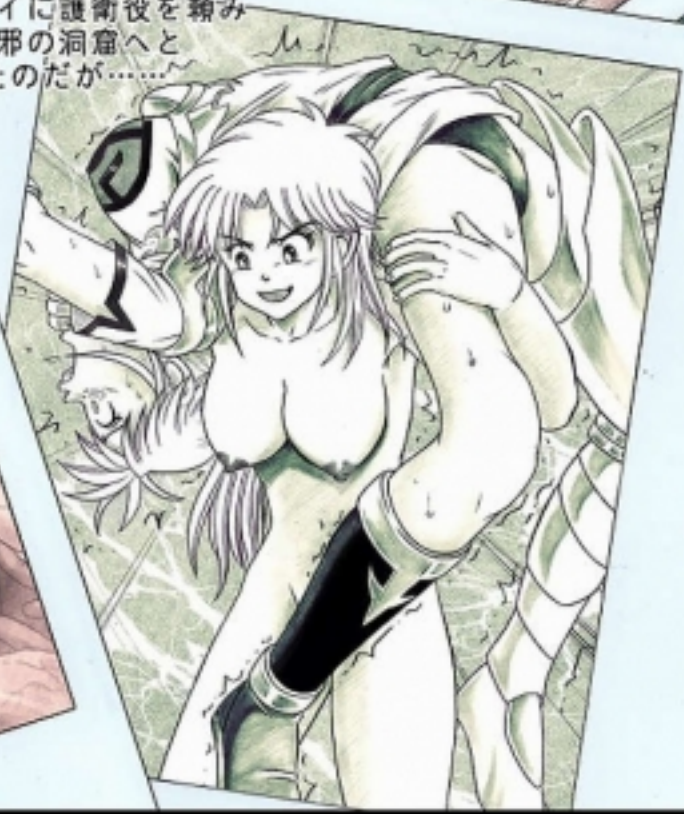


[www.cyclone.sakura.ne.jp](http://www.cyclone.sakura.ne.jp)



大魔王打倒のため  
破邪の洞窟でミナカトールの  
会得に成功したレオナ。  
しかしその際、  
洞窟内で発見した数々の宝箱は  
開けずに放置してきたままで、  
彼女はそれが  
気がかりでならなかった。

そこで、レオナはダイに護衛役を頼み  
2人で再度、破邪の洞窟へと  
向かう事にしたのだが……



成人向け書籍

スタータック・イドー

# STAR TAC ■ IDO

~ようこそ破邪の洞窟へ~ (第4章)

WELCOME TO PROVING GROUNDS OF THE MAD OVER... DUPE! THIS STORY WAS NOT A PARTY OF SIX.



YCLONE





大魔王打倒のため破邪の洞窟でミナカトールの会得に成功したレオナ。

しかしその際、洞窟内で発見した数々の宝箱は開けずに放置したままで、彼女はそれが気がかりでならなかった。

そこでレオナは、ダイに護衛役を頼み2人で再度、破邪の洞窟へ向かうことにしたのだが……



そこに待っていたのは、恐ろしい数の数々だった。

地下12階で発見した、ベアの指輪。

レオナはこの指輪に何らかの破邪の効力を期待して、自分とダイの指にそれぞれはめてしまおうのだが、それが2人にとって憂鬱の始まりとなる。

なぜならこの指輪は、つけたものに災いをもたらす呪われたアイテムなのだ。



呪いの効力はすぐさま2人に降りかかった。指輪から黒い霧が噴き出したかと思うと、次の瞬間それらは股間へと集まりだす。

気がつけば2人の性器には卑猥な器具が装着させられていた。



それは実際に何をかめてしまったのか……

私たちが先にも見てきたように、破邪の指輪は、破邪の指輪を……



卑猥な器具は、行く先々で2人を苦しめた。歩くだけでも擦れて身体に要らぬ刺激を与えてしまうというのに、何より厄介だったのが戦闘時における制約……

器具は身体をつたう高いエネルギーを感じると猛烈な勢いで震えだすという作用があり、このせいでレオナは得意の魔法を、ダイは力のよりどころである魔眼をまったく使えなくなってしまうのだ。

そうして力を封じられた2人は雑魚モンスターにすら勝つことができないようになり、次第に追い詰められていく。そして……



力尽きたダイはモンスターに生きたまま飲み込まれてしまい、レオナは慰みものとして地下深くに連れていかれる。パーティーが全滅した瞬間だった。

時をほぼ同じくして、地上のアジトではレオナとダイが行方不明になったという話が広まりはじめ、それを聞いたマアムは直感でレオナたちが破邪の洞窟に宝箱を漁りに行ったのではないかと思い始める。



以前、レオナに宝箱の放置を勧めたのは自分。その事を考えると素直に事態を放っておくことができず、マアムは単身、破邪の洞窟へと向かうが、しかしそんなマアムにも魔の魔の手が忍び寄る。

手に入れたばかりの魔甲冑を強化させ、凄々と下の層へと進むマアムの視界にふと入ってきた大きな鏡。そこには古ぼけた文字で、こう書かれていた。

「力を求める者 この鏡に触れて汝の名を述べよ」



破邪の力を手に入れられると錯覚したマアムは疑う事なく鏡に触れ、自分の名前を口に出す。しかしそれは魔を起動させるための罠であり、その瞬間からマアムにも受難がはじまるのだった。

マアムと対峙する、もう一人のマアム。鏡に映っていた自分の姿が意思を持ち、勝手に歩き出す…。

自らを鏡の精たと名乗る片方のマアムは、この状況を語り始めた。



あの瞬間、マアムにかけられた呪いは、自らの肉体を強制的に2つに分断させられ、そのうち片方を鏡の精に奪われてしまうというものだった。



唐突な事態にマアムは驚き、挑発にのって偽者のマアムと闘うことになるが、結果は惨憺たるもの。

なぜならマアムは肉体を分断させられる際、武道家としての才覚をすべて偽者に持っていかれ、本物に残されたのは前衛戦士としての才覚のみ。

マアムは武道家として得た力のすべてを失ってしまっていたのだった。

…そうして戦いに敗れたマアムは偽者の手によって徹底的になぶられる事になった。

身体を爆弾岩に張り付けられ、一切の身動きがとれない状態下…。



マアムは偽者の手によって処女を奪われ、薄汚い男であてがわれた拳銃、最後はモンスター級の鬼みものとして洞窟内に放置されてきてしまう。

ある者には股内に卵を挿え付けられ、またある者には生臭い精液を身体の中に注がれ…。

マアムはただただそれを受け止めるしか術はなかった。





カッパッパッパッ

おね...  
が...い...ッ  
だか...  
...らッ

...おねっ...  
カッ  
カッ

もう...入れな...

カッパッ

カッ

カッ

カッ

カッ

ああ...  
ああ...  
ああ...

カッパッ

カッパッ

はあッ

はあッ

カッパッ

はあッ

カッ

カッ



キキキ  
キイイ

キキ...

カッ







ようこそ  
破邪の  
洞窟へ

第4章 「最悪な再会」







はあ

はあ

こんな拘束は  
はずして…怪物を  
倒してやるのに…

武闘家の  
力さえ戻れば…



はあ

はあ

武闘家  
の……ッ



でも……  
まるつきり  
手が無い  
わけじゃない

……

おそろしくあの手を  
使えば今の私でも  
この状況を度える  
ことができるはず……



んうッ

んっ……



ただ問題は  
それをしたとして  
私が生きていら  
れるかどうか……

んっ

それに何より  
相手に通じる  
かどうか……



ただどこのままだけぬまでこんな辱めを受け続けるくらいなら……いつそ……

ん!!

ん!!

ん!!

ん!!

ん!!

ん!!

ん!!



一か八か  
試して……

ポッポッ



マホイミー!



マ……マ……

マ……マ……



はあ

はあ

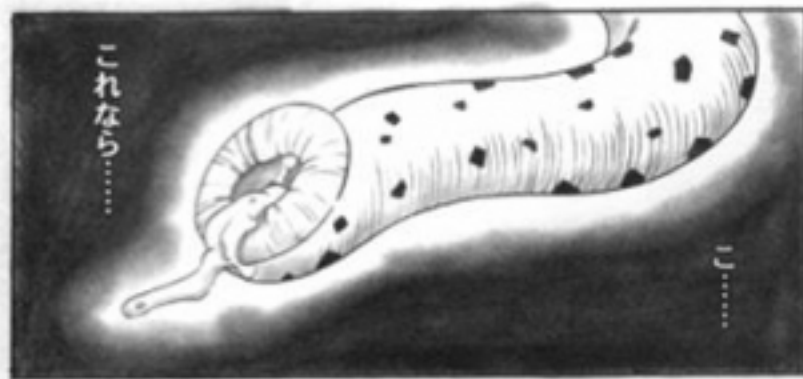
今の私は  
ただの無能だから  
閃華烈光拳は  
もう使えない  
でも……あの  
魔法なら……ン





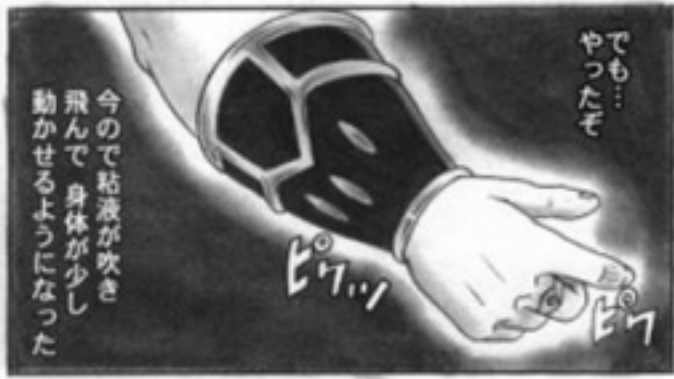
ベ  
ガ  
ヤ

なん...だ？  
今の.....  
ものすごい衝撃は...



これなら……

……



でも……  
やったぞ

今ので粘液が吹き  
飛んで、身体が少し  
動かせるようになった

ピクッ

ピク



脱出  
をツ……



はあ

はあ

はあ



うああああ  
ツ!

うう……う  
……う

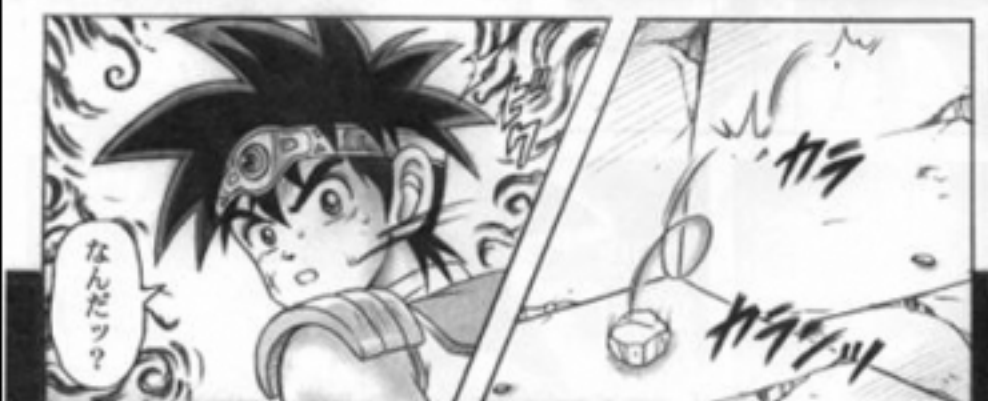
ググッ

ググッ

ボクッ

ボク

ボク





どうすればいいんだっ

どうすればっ

おれは回復する手段を何も持っていない...

助けるために地上を目指すにもこの呪いのせいでアイテムのせいで時間がかかるから分らない



竜の騎士の血！  
父さんがポップを  
助けてくれた時の  
ように



待て……よ  
助ける方法が  
一つだけ……



あ  
!!!?



いや考えていても  
始まらないッ  
他に方法が無いなら  
やってみるだけだ

ただ……  
純粋な竜の騎士じゃ  
ないおれに  
そんなこと……



たしか……  
あのとき父さんの血は  
いつもと違って何か  
光っているようだった

たぶん血に  
竜闘気の  
エネルギーを  
伝わせて……

こんな感じで……









……やる  
しかないッ

だああッあ  
ああ——ッ



なにか……  
聞こえる……

……



……  
聞こえる？

……  
じゃあ……  
……私……



どれくらい……  
気を失ってた  
のかしら



まだ  
生きて……



メガンテをくらって  
そんなにダメージが  
残っていない……

……  
生きている  
のですら驚き  
なのに……何？



かつ…はあ  
……！



いつもと  
全然動きが違う…  
なんでダイが  
あんな低級怪物を  
相手にてこずって  
……

どうしたって  
いうのダイ…









どうする？  
殺してしまおうか？

いや……  
どうせならば……

……なるほど  
それはいい

さっそく  
始めよう



そいつの  
生殖器をこの女の  
こちへ入れてやれ

おい  
人面樹……

お前が挿らえて  
いるそのガキを  
こちへ連れてこい



お前たち2人には  
産卵までの間ひたすら  
まくわってもらい

強力な回廊を  
誕生させるために  
働いてもらうぞ

そんな……



その男の精液を  
三日三晩  
絶えず与え  
続ければ  
さぞかし通常の  
個体よりも強靱な  
力を持って  
排出の時を迎え  
るのであろう



さそり蜂の卵は  
どんなモノからも  
養分を吸収する  
食欲さを持つ

そして個体の優先は  
どれだけ産卵までの間に  
豊富な養分を  
手にするかで決まってくる











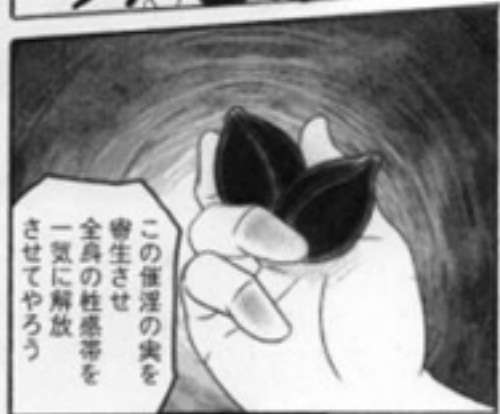
極上の快楽だ



ククク...  
素晴らしいものが  
感謝して  
もらいたいものだ  
なにせ  
そうめつたに  
味わうこと  
できない...



ゴブゴブ





あああッ

あゝあゝあゝ



あゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝ

アッ  
アッ  
アッ



さあ存分に  
よがり狂い…  
我らが邪神に  
晒すのだ！



クク……  
その実から  
吹きかけられる  
催淫ガスによって  
お前たちの身体は極限まで  
感度を高められた状態になる

んはあ

ほへ……

色欲に染まりッ

性器と性器を  
擦りつけあう  
その醜態ッ！  
身体中いたる  
ところから  
体液を  
撒き散らす  
惨めな姿を！

あはあ

あ!!

ゴウッ

あ  
イグッ

ゴウッ

ゴウッ

また  
イグッ

あっ……♡  
気持ちいい

すっ……♡  
すっ……♡

地上で得ていた  
地位も名声も……  
使命も何もかもを  
忘れ快楽に興じよ！

そして捨てるのだ！  
お前たちを着飾る  
つまらぬものを



さすれば邪神は  
慈悲としてお前たちの  
魂をすくいあげ

次に命を戴く時には  
高等な魔族として生まれ  
変わるかもしれない

まして  
お前たちは  
腹に宿らされた  
同胞の卵たちを  
育てているのだ

この厚い奉仕は  
必ずや邪神が  
見ていて下さる  
ことだろう

あ……♡



さあ持てる  
力の全てを  
出しきり…

ひたすらまくわい  
続けるがいい！

お前たちの命が  
尽きるまでな

第4章 END

第5章へ続く



YCLONE  
成人向け書籍

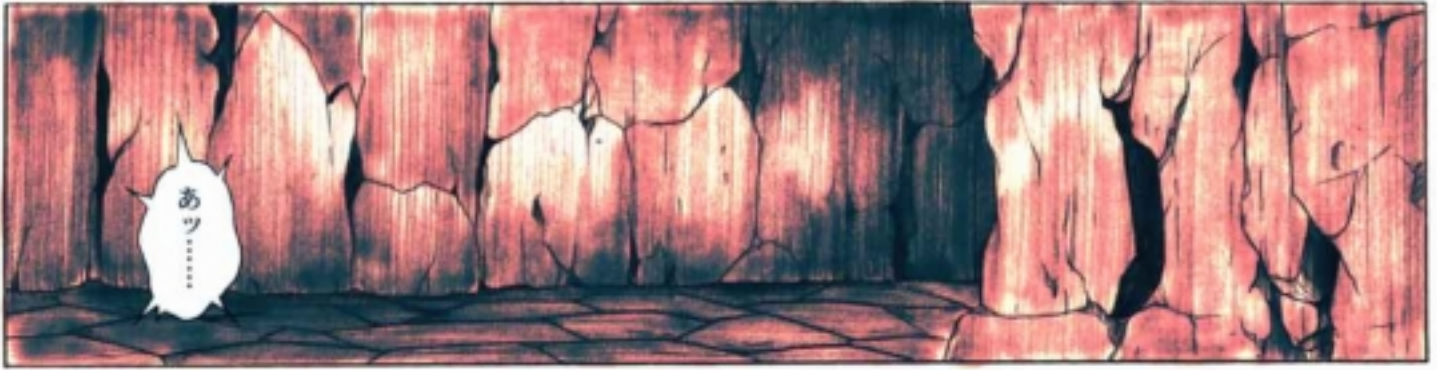


スタータック・イド

# STAR TAC ■ IDO

~ようこそ破邪の洞窟へ~ (第5章)

WELCOME TO PROVING GROUNDS OF THE MAD OVER... Oops! THIS STORY WAS NOT A PARTY OF SIX.



Chapter V





うっ……  
——うあああッ——  
ツッ!

はあ……  
……あ——ッ

あッ……ん



あッ……ああ  
出るッ

……っ!

……ん……  
……っ!

は……ん……  
出るッ

へあ……  
あ

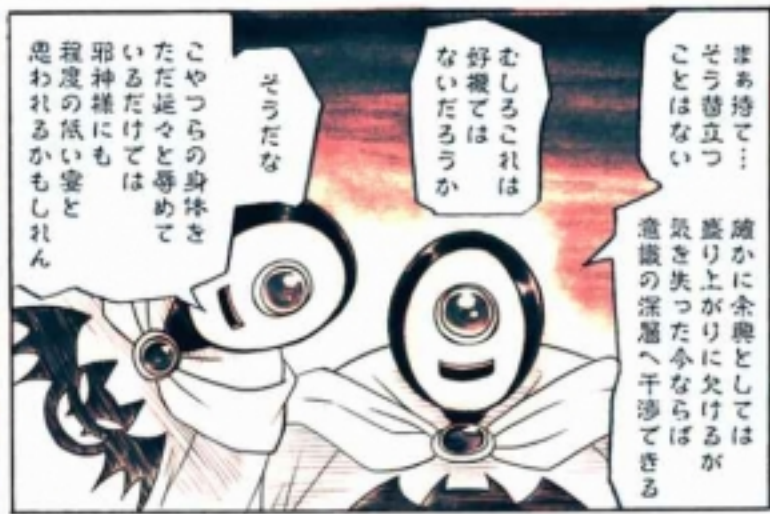




宴の献上品としての  
質をあげておきたい  
ところ

ここは之人の  
精神そのものを垂め…

クク…約遊は  
まさに我らの得意と  
するところだ



まあ持て…  
そう替立つ  
ことはない  
破かに余興としては  
盛り上がりには欠けるが  
気を失った今ならば  
意識の深層へ干渉できる

むしろこれは  
好機では  
ないだろうか

そうだな

こやつらの身体を  
ただ延々と辱めて  
いるだけでは  
邪神様にも  
程度の低い宴と  
思われるかもしれん



ては

決まり  
だな

心身ともに  
衰弱している  
今のうちに

こやつらの自我を  
改変してしまおう

ようこそ  
破邪の  
洞窟へ

ダイ……  
ちよつと……  
…何を……

やめて……  
ダイツ

い……  
…痛いッ

おねがいだから……  
それ以上  
引っ張らない…でッ

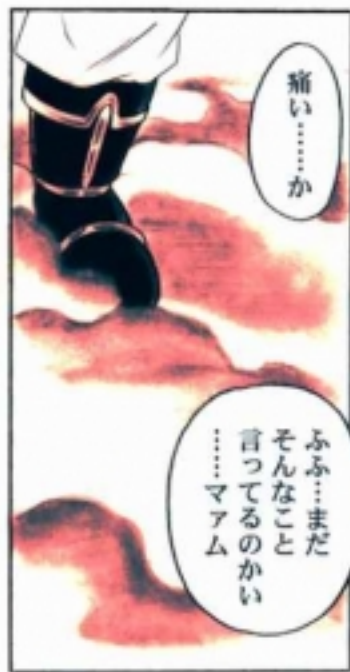
痛いわ  
ダイツ!

グイッ  
グイッ

グイッ

グイッ











その証拠に  
ほら……



身体が  
苦痛と捉える刺激もさ……  
心が悦びとして  
受け取っちゃうんだよ  
もっと唐めてくれて  
願う隠れた気持ち  
身体に勝手な  
命令を送っている

もっと言うと……  
……そういう  
苦しむ自分の姿で  
興奮しちゃったりも  
するんだよね  
……マアムは



今も  
こうやって……

わっとり……

縄を濡らすほど  
濡らしちゃって



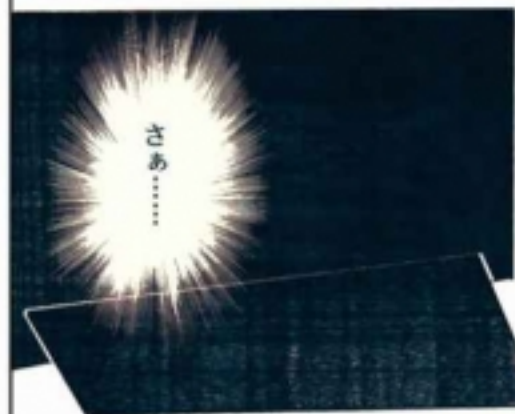
ハッ

……キキ……



外から見る分には  
健康で申し分の無い  
立派な肉体でも

心の中には  
歪んだ感情を  
たくさん  
潜めている……





…やめてくれ どこを  
マアムツ 触って…

それにね…ダイ  
私さつき…  
あなたの弱点  
見つけちゃったのよ

なによ  
いいじゃない

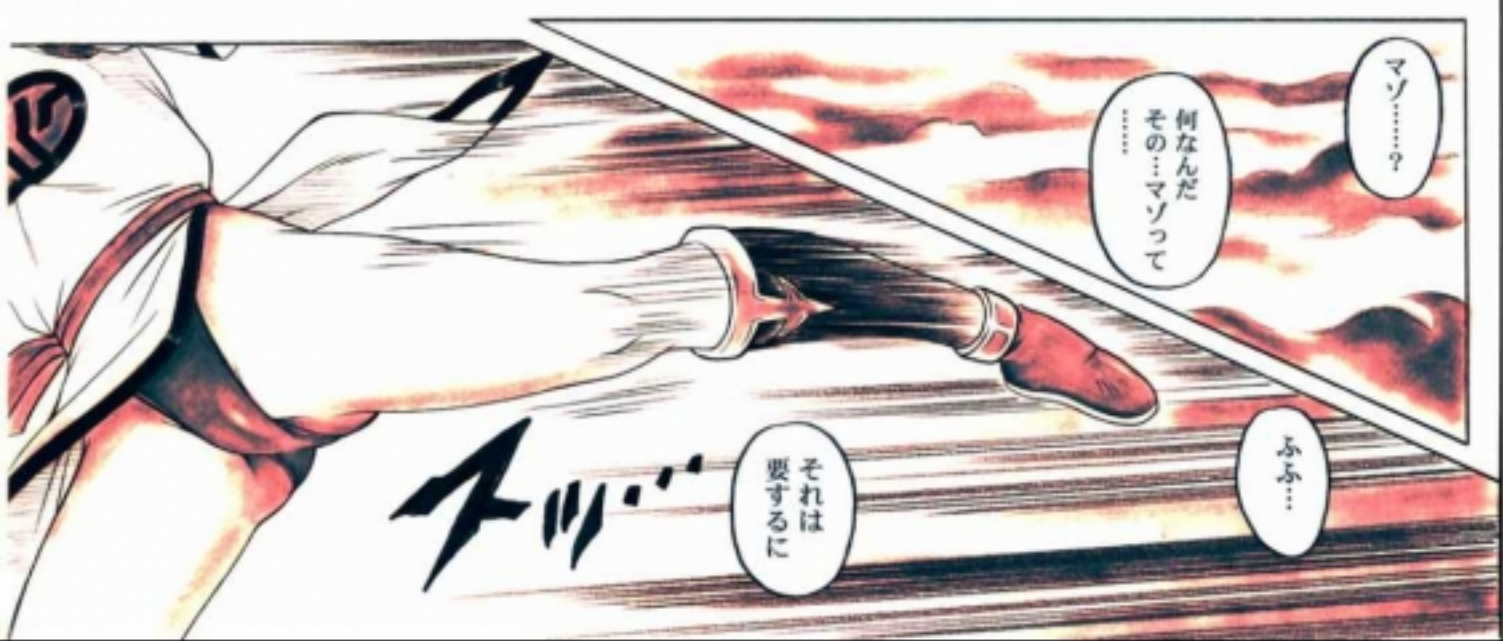
え?

弱点…  
おれに?

ええ気づいたの  
あなたって実は…

ついにさつきは…  
私たちあんなに  
激しくやりあつた  
んだから

とんでもない  
マソの気が  
あるって事に



マソ…?

何なんだ  
その…マソって

ふふ…

それは  
要するに

ドゥ…



……ううう  
うううー！

がっ  
は

ガッ  
ガッ  
ガッ



えっ……？

クク



マア……ム……

ビキヤ……



なっ……



なん……  
で……

ほら……ダイ  
自分の下半身……  
よく見てみなさい



なん…  
…なんだッ

なんで…  
…こんな!

ふふ…ものすごい  
勃起でしょう?

これ…私に  
殴られたのが  
快感でガマン汁  
噴き出しちゃつて  
るのよ



いい? ダイ…  
あなたの心は  
勇ましくて力強い意思で  
満ちているけど

逆に肉体の方には  
密かに……  
マゾの素養が  
眠っているの



ムムム…



あなたの中に眠る  
強烈なマゾの気を  
一気に呼び覚まして  
あげるからね

さあ…ダイ  
目覚めの時よ

あ……



各々…  
良い具合に  
仕込みが進んで  
いるな

この罫子で  
催眠をかけ続けられ  
…ツク

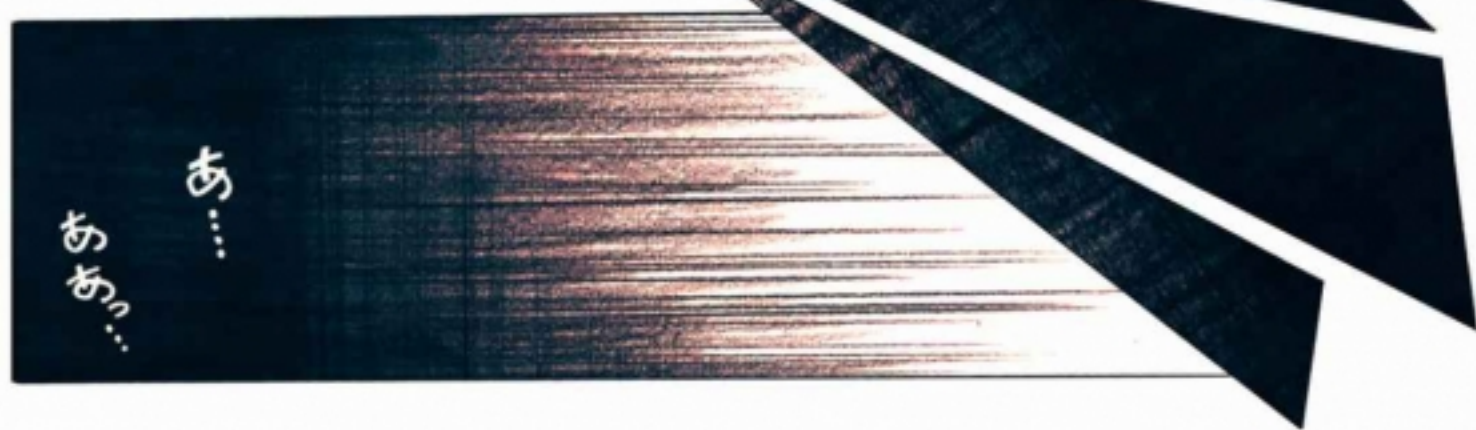
ああ

我らの  
思い通りに……



さあ人とも  
生まれ変わるのだ!

真性の  
マンヘとな



あ……  
あ……



はあ

はあ

はあ……

はッ……

はあッ……あ  
あ……あ

はあッ……  
はあッ……







これでもう  
5回目くらい？

またいったね…  
…マアム

おめっ

お!!



穴の奥に  
太いもの  
ぶちこまれたら

もっともっと  
気持ち良くなれる  
って事を



ふふ…  
だけど指で触られる  
だけじゃ  
そろそろ物足りなく  
なってきたるん  
じゃないか？



なにせそうとう  
快楽に染まってきて  
いるようだからね

マアムほど  
強いマゾの素質を  
持った女なら  
当然カラダが  
解っているはずだよ？



自分から進んで  
マゾの道を  
切り拓いてもらわないと



もっともっと  
気持ち良くな  
りたいんだ  
ったらさ

おれに  
言われる  
ばかりじゃなく…



でも

続きをして  
ほしかったら  
このままじゃダメだ





いつも違和感があつたんだ



ママムのようにマゾで変態な女が武道着に身を包んで戦っている姿がさ



肌に密着して身体のラインをいたずらに強調し

全身怪しく黒光りする



この卑猥な衣装



この服が  
どれだけ自分に  
合っているかは  
本人が一番よく  
分かっているか

ま……



コレを着ること自体が  
マアムを相当  
高ぶらせているようだね

ズツツ……

指でイカされてから  
しばらく時間が  
経っているっていうのに  
そこはまだ  
グチヨグチヨに  
濡れたまんま



思った  
とおりだ

お似合いの  
格好だよ  
マアム



どうだい？  
せっかくだからさ  
ちよっと  
オナニーでもして  
高ぶった身体に  
応えてあげなよ

い……いや……  
……そんなこと  
人前ででき……  
いいやできる

その格好でやると  
いつもと違う……  
ケタ違いの快楽を  
味わえるはずだぜ



キミはもう  
マゾとして  
目覚めて  
しまったん  
だから



う……ん



できるはずだ



おれの前で  
オナニーくらい  
できるはずだ



はっ……あ  
ああああッ……





ダイに...  
見られて  
いるから？

はあ

ググッ  
ググッ

はあ

...それも  
ある

はあ

でもッ  
それより  
この服ッ！



まったく...  
なんてやらしい  
顔だ

フッ



キョッ

キョッ

ハッ

ハッ

どんどん  
馴染んで  
いって...  
身体に  
密着してく

まるで何かがッ  
...全身に  
巻きついてくる  
みたいで...  
すごく感じちゃう



ほらッ  
これを使えよ

これを穴に  
突っ込めば  
指じや届かない  
奥まできっちり  
刺激が伝わるぜ

で...でも  
...これって



ママムが装備してた  
この胸当てなんて...  
アソコに入れるには  
丁度良いサイズだと  
思わないか？



いちいち  
気にするなって  
どうせもう  
要らなくなった  
武道着なんだ

処分をかねて  
穴に突っ込ん  
じゃえよ



ああッ……  
あー

ガッ  
スズ……

あ……

どうだい  
ママム……  
奥をかき回される  
快感で 意識が吹き飛び  
そうだろう？

すごい！すごい！

ガッ  
スズ  
ガッ  
スズ

ガッ

ガッ  
ガッ



ガッ

はあああ  
ツ



スツ……

そんなに  
コレが  
気に入  
ったなら

後ろの穴にも  
ぶちこんで  
やるよ

スツ  
スツ



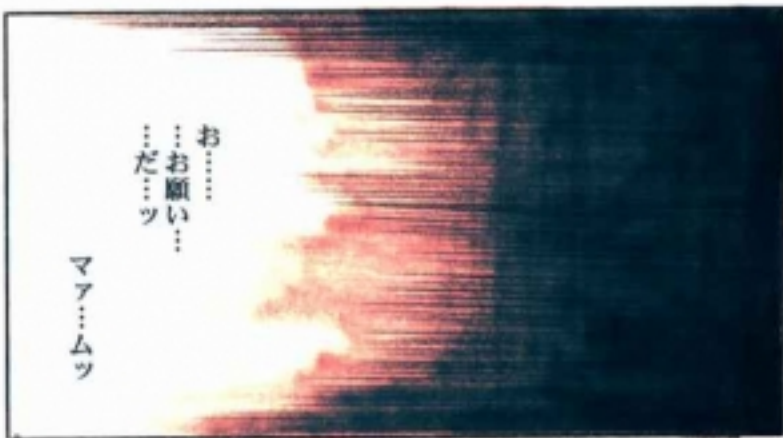
ははっ……

愛用してきた  
武闘家の防具も  
今や穴をかき回す  
肉棒代わりか

クッ







お……  
……お願い……  
……だ……ッ

マア……ムッ

もう……  
ダメ  
なんだッ

頼むッ

頼むから  
イかせて  
くれえ——ッ



まあでも  
ムリもないか



勇者のくせに  
そんなはしたない  
セリフ吐いて

さつきから  
ずーっとお尻の穴  
舐め続けて……  
もう指の2本や3本  
スルスルと入っちゃう  
くらい緩く  
なっちゃったからね





そりや一度は  
イきたいわよねえ



ここまで  
アナルを  
弄られたら...



吸われ...たら...  
...ああ...ッ

そん...あ  
あああ...

う...ああつ  
あああッ!

あらあら...  
穴が拡がりすぎて  
恥ずかしいニオイが  
ただ漏れ

うふふ  
...臭くて堪らないから  
肛門思いつきり吸って  
フタしちゃお



ははっ  
ヒドい有様ねえ

今のあなた  
死ぬほどブザマよ



はぁっ

はぁっ



でも……覚悟は  
しといてね



お……  
お願い……だ  
マアム  
もうおれ……

うーん……  
仕方ないわねえ  
分かったわよ

じゃあそろそろ  
イかせて  
あげようかな



こんなにも  
我慢を続けた状態で  
派手に射精  
しちゃったら……  
あなたの身体に  
膨大な快樂が  
一気に押し寄せる

そんなことに  
なったら  
どうなるか

おそらく  
これまで眠っていた  
マソの才覚が全開して  
常にチンポが疼く  
とんでもない変態クンに  
なってしまうわ



あッが！



そんな身体じゃ  
おそらくもう……

ろくに戦う事  
できなくなるで  
しょうね

そん……なッ

それ……は  
困……

お気の毒  
さまあ〜

わっ





しかし……  
それはそれとして  
……だ



フッフ…

これでヤツらの  
深層心理に  
己がマンである事が  
掘りこまれた

目を覚ました時…  
…それらは夢でも  
幻でもない  
現実となる

催眠によって  
狂わされた自我に  
さぞかし苦しめら  
れることだろう



記憶を  
辿った結果……

やっ…  
おの…  
おの…

おん…  
おん…

まさかこの之人が  
魔王軍と戦うあの  
勇者一味だったとは  
思わなかったぜ



我々も一つ  
驚かされたな

あっ  
もっと…

ああ…



さあ

今すぐ  
サボエラ様  
に  
報告だ



だが……  
これもまた  
良いは  
ないか

……これで無々  
もって面白くなる

破邪の洞窟にて  
勇者ダイと  
武闘家マアム

2人を捕らえ  
辱めているとな

第5章 END  
----- 第6章へ続く



僕にはまり、爛葉漬けにされた肉体……効果を鎮める解毒剤を手に入れるため、マアムはやむなく地下闘技場への参加を強いられる事になるが――

薬で火照らされた身体は、堪えるようにスピードとパワーを出せず、その両輪を回された武闘家がどれだけ無力かは、すでに先の戦いで痛いほど思い知らされている。

「おおつとマアム選手ッ！ シャドーリタンに捕まり……」

いたすらに肉体を卑猥に見せるリング用のコスチュームも相まって、マアムの格好は、ブザマそのもの。



結果、マアムは実にあっけなくモンスターに敗れさってしまい……そして降参の後にこそ本当のショーが始まるのがここ地下闘技場……

「ああっ！ こ、これは恥ずかしいッ！」

「投網を無様やり……あんなに大きく聞かされて……おおお」

モンスターはマアムの身体を助すかしい姿で固定すると、会議中の人間に顔態を晒させはじめ。

「……ご覧下さい！ マアム選手ついに我慢しきれず……イッてます！ 潮を吹いて仕様にイッちゃってますッ！」

マアムはあまりの恥ずかしさに頭が混乱するが、しかし同時に興奮は天井知らずに高まっていき、仕切幕閉幕を会場席にぶちまけて初戦を終えた。

地下闘技場 第1戦 マアム、シャドーサタンにあっけなく敗北



初戦の敗北から  
一夜が経ち…  
今日もマアムは  
地下闘技場へと  
立たされる。

「マアム選手…  
積極的に攻めに  
いくものの  
まったく攻撃が  
当たらない！」

何としても勝たなければ…  
マアムは必死になって、目いっぱい  
攻撃を繰り出し続けるが、力をこめる  
たびに股間に走る不本意な快感が  
マアムの強烈なはずの一撃を  
ひ弱なものへと変えてしまう。

そっ、そっ、そうしてやれる  
うちにマアムは足を止めた…

「おっと……」  
持ち上げて  
あぁ——ッ……マアム選手の  
エッチな部分を……  
マ〇コを弄り始めました！」

「いやあ！これもまた恥ずかしいッ  
マアム選手！あまりの恥ずかしさに  
顔を真っ赤にして鼻を流しています……  
そんなのお構いなしでどんだん  
指がアソコに入っています！」

地下闘技場 第2戦 マアム、エリミネーターにあっけなく敗北



「ああ、いいなオイ……  
やっほ中て出すと  
射撃感が殺陣いだぜ」

「へへ……上の口も  
なかなかいぜ？  
不慣れだけど  
コイツ風がすげえから……  
気持ち良いぜ」

試合後、動場で火照りきった  
身体を引きずりながら  
控え室へと向かうマアム。  
すぐさまあの卑猥な  
リングコスチュームを脱ぐと  
いつもの武道着姿に戻り  
何とか一息をつくが、  
しかしその直後、マアムの  
短い安息は終わる。  
見張りの警備兵たちが  
控え室に押しかけ、  
マアムに  
迫ってきたのだった。



「な、あやらせろって……  
こちららアンタの股間から漏れてくる  
メスくせえ匂いを一日中嗅がされて  
ムラムラしてんだからよ」

「なんだ気づいてなかったのか？  
見張りの連中みんな言ってるぜ……  
お前のそばに立っているだけで  
マン汁が匂ってくるってよ」

地下闘技場 控え室で警備兵たちに犯されるマアム

「う日もまだ  
負けるのか…」

頭の中でそう嘆き、  
半ば諦めたまま  
試合に挑んだ  
マアムだが、その  
中途半端な戦意は  
これまで以上に  
悲惨な敗北を  
彼女に与える事に…

「マアム選手……  
子宮に……子宮に  
毒を直接吹きかけられ  
しまっています！」

「あああ——  
やはりもう遅かったッ  
キヤタピラーの触手から  
毒ガス噴射です！」

「おめこれはやばい……  
実に危険ですッ  
このままマアム選手……  
キヤタピラーの  
拘束から逃れられ  
ない」と……

「キヤタピラーの毒を  
あんな形で浴びたら  
最後……七はや再起は  
不可能ではないでしょうかッ！」

地下闘技場 第3戦 マアム、キヤタピラーに毒を注入されて悶絶



「もはやマアム選手…  
昨日のキヤタビラー戦で  
武闘家生命に終止符を  
打たれた模様です」

「しかしこれは…  
ひどい試合です。  
あのホイミスライムを  
相手に苦戦をする  
武闘家がかつて  
いたでしょうか！」

「ホイミスライム…  
マアム選手の足を  
すくいとって  
押し倒し…一斉に  
襲いかかる！」

前日の試合で受けた毒攻撃は  
血清の投与により命の危険こそ  
なかったものの、  
その後遺症としてマアムは  
筋力をはじめとした  
あらゆる身体的能力を大幅に  
失う事になってしまったことに…。

「こうなってはもう  
仕方ありません。  
試合の代わりに  
マアム選手の壮絶な  
絶頂をご覧頂いて  
ショーを楽しんで  
頂きたいと思えます」

あッ…  
イク…  
もう…ダメ  
イ…ちゃら…ッ

あッ！  
ああッ

地下闘技場 第4戦 毒の後遺症により弱体化したマアム、ホイミスライムにすら敗北



試合後、マサムは火照った  
身体を引きずりながら、  
今日もまた整備兵たちの  
持機所へと向かう。

そつしてヘッドに自ら垂るる、  
四つんばいになって  
無言で尻を突き上げた。

「うーはあー！今日も  
またすんぽー臭えな  
お前のゴコはよ！」

「そついや今日！  
噂を聞いたぜ。  
お前もう毒にやられて  
戦えない身体らしいから…  
次の試合でもう  
お役御免だよ！」

あつん

はッ…  
れはッ

あつ

「うたぐ…  
一日中  
べちよべちよに  
濡らしてる  
からだぜ？」

「まッ…安心しろ。  
用済みには用済みなりの  
使い方ってのがゴコには  
あるからよ。  
生きていく事はできるよ！」

武闘家としての力を失い、  
身も心もボロボロにされたマサム。  
しかし皮肉な事に、そんな彼女に  
とって今や振り所となっていた  
のは、快樂だった。

地下闘技場 試合後に兵士とするのが日常に

翌日……  
麻通りマアムは  
この日を最後に  
リングから降ろ  
される事が  
決まり、  
最後の試合が  
とり行われる。

「いやああ……  
たりにけてえ……」

「もう許して……  
マアム……」

結果は当然、マアムの敗北。  
上半身がぬじ切れそうな程の力で  
締め上げられ、最後は悲鳴をあげながら  
失禁をするという惨めな姿を晒しながら、  
マアムは武闘家生命に幕を閉じた。

そして、それから  
しばらくの後……。

「おい……どうだろ、  
気持ち良いか？」

用済みとなったマアムが最後に  
行き着いたのは、性欲処理の  
はけ口として使われる  
整備兵たちの精液便所。

「はあ……はあ……  
あ……あ……あ……」

「あ……あ……  
あ……あ……  
あ……あ……」

マアムは一人、誰も夜も分らない  
薄暗い地下闘技場の一角で  
ひたすら快楽に溺れる人生を歩むのだった。

全てを失い、そして、性欲処理用の慰み者へ

**END**